

# 第1回 旧広島陸軍被服支廠 安全対策・価値調査等検討会議 議事録

日時 令和4年2月7日（月） 10時～

場所 広島市まちづくり市民交流プラザ北棟5階  
研修室C（WEB開催）

## 1 開会

広島県松井経営戦略審議官による開会挨拶（三島政策監代読）

## 2 委員紹介

事務局による委員紹介

## 3 会長の選任について

委員の互選により、後藤委員を会長に選任した。

## 4 議題

（1）旧広島陸軍被服支廠に係る安全対策等工事实施設計及び文化財指定に向けた価値調査について

事務局 資料3により説明

（質疑）

藤田委員 安全対策の実施設計を6月から10月に行うということと、文化財的価値の把握、整理を7月から12月にかけて行うという双方のスケジュールについて、文化財としての価値調査の結果が出ないうちに、設計を進めるというのはしんどいのではないか。スケジュールの関係性について説明をお願いしたい。

事務局 文化財的価値の把握、整理について、作業の一端には着手している。安全対策等工事において、建物の価値をき損しないという観点から、委員には個別に相談する機会も設けながら対応していきたい。文化庁にもオブザーバーとして参加してもらっており、相談しながら進めていきたい。

後藤会長 カーン式鉄筋などについては、建設当時の資料がおそらくあるので、強度を予測するなど、実施設計に活かせる部分もあると思うし、設計に早期に着手するというのもそういうところもあると思う。

中川委員 煉瓦からRC、ヨーロッパ系の技術からアメリカ系の技術へという建築の移行期に当たる建物である。外国を含めた構造・技術の背景的な状況も含めて整理をしてもらいたい。

後藤会長 海外調査まではまず無理としても、先行研究をきちんと取りまとめて、比較検討を行うこと。

楠委員           ブレースを入れることは聞いていたが、カーン式という特殊な配筋がされている。他の建物を見ると全てをカーン式にしていけない建物もある。補強する箇所を中心に、可能な限り、建物のうち全部がカーン式なのか、一部なのか、調査により広範に把握できるとよいと思う。

補強工事による躯体との接合箇所など、昔の建築と今の技術をうまくつなげるように留意して進めてほしい。

後藤会長           工事中の期間をしっかりとることなど、昨年の会議でも注文したところである。

事務局           整理や進め方については、検討して、別途報告したい。

千田委員           残念ながら、広島陸軍史の研究は遅れている。文化財的価値を整理するにあたっては、広島陸軍の役割、それが大きくなっていった経緯を把握した上で、そうした歴史の中でこの建物をとらえてほしい。

また、広島は海軍の関係もあって煉瓦の建物の多く、煉瓦の産地でもあった。どこでどうつくられたのか。そのほか、海軍を見ると太田川の川砂や、宇品の護岸を構築した人工石など、地元の材料・技術が使われてきたことが分かっている。この建物についても、こうした観点からも調査をしてほしい。

事務局           現時点ではそこまで調査がいたっていないところであるが、委員には、文献や人の紹介を含めて示唆をいただきながら、調査を進めていきたい。

後藤会長           これらの委員の意見については、中身を修正するようなものではなく、追加的な内容なので、引き続き事務局で検討してもらいたい。その上で、事務局から報告のあった進め方・調査の内容については、このまま進めていくということによいか。

委員一同       異議なし

後藤会長           検討会議として了解し、事務局においてはこの内容で進めてもらいたい。

## (2) 今後の取組みに係る全体的な要望について

後藤会長           この取組に対する思いなどについて、一言ずついただきたい。

大久保委員       鉄筋の腐食が気になっている。雨漏りがある箇所は、今も加速度的に腐食が進んでいる。周辺の住民に安全性に影響するような箇所は、実施設計を待つことなく、早急に応急措置をしたほうが良いと思っている。検討してほしい。

また、常時微動を測定すると、通常の建物では考えられないような揺れがある。地盤沈下

の影響なのかもしれないが、今後、データを取りまとめた上で、担当課である営繕課、日建設計、楠委員にも入ってもらえたらよいが、打合せの場を持つことができると考えている。

全体的な方向性については賛成している。

後藤会長 常時微動については、補強が進んだ後に、それが想定通り進んだのか確認する意味でも重要と思う。

楠委員 大きな規模の建物であり、歴史的建物の常として、劣化が進んでいることは気になる。立派で意味のある建物なので、活用してもらって、地域のシンボルとなるようなものになればよい。そのためにも安全性を担保することが基本であり、建物は日が経てば劣化していくものであることから、今回の工事が終わった後も定期的なメンテナンスが行われることを期待する。

あとは、なるべく早く今後の会議日程を確定してもらえると助かる。

千田委員 被服支廠を歴史的に広くとらえると、広島近代の都市の役割みたいなものが明らかになってくるのではないかと考えている。旧日本陸軍の一番の兵站基地として、瀬戸内海との位置関係もあって成り立ったのではないかと。3つの廠、糧秣支廠や兵器支廠も含めて、交通面、海運との関係や、製造やデザインを含めてどう使われていたのか、また、軍事は技術と結びついており、例えば、大陸に向けて凍傷対策の被服が作られていたのかなど、いろいろ興味深い。限られた時間ではあるが、そういった目でも考えていきたい。

中川委員 千田委員が言われるように、日本、広島近代化との関係、様々な形で再利用された歴史、明治から大正にかけての日本の技術的状況が出てくる。そして、重要なのは、原爆の影響が実物として残していくということ。都市における文化遺産の活用ということを考えると、様々なポイントがある。

今回の取組みは、近年にない、文化遺産検討の一つの事例になるのではないかとと思う。

長谷川委員 文化財としていろいろな価値が潜んでいる建物である。今のところ、技術的に優秀、歴史的に価値があるという点が推察されるが、調査すれば新しいものが出てくる可能性がある。

カーン式やコンプレッソル杭の報告があったが、その前に、工法的にはRCと煉瓦のハイブリッドを構成する工法技術に興味があり、そこに価値があると思う。ほかに事例があるかどうか、調べてもらいたい。

この建物の煉瓦壁は、純粋な煉瓦の積み方となっている。その中にRCが納まっている。この施工技術についても、他にはない価値があると思う。

藤田委員 陸軍というものを調べていく必要があるのはまさにそうだと思う。『暁の宇品』という本がベストセラーになっているところだが、世に知られていなかった陸軍の物資の輸送ルー

トに光があてられた。そういう時代にあって、被服支廠というものの価値を検討していることになる。第一の価値は被爆建物かもしれないが、第二の価値としては、巨大さを見ると、陸軍といった軍隊の力を感じることをできること、戦争遺産というものの位置付けを踏まえないと、価値が明確にならない。

また、3つ目として過渡期の構造技術を明らかにする必要がある。

短い期間ですべてをやることはできないかもしれないが、調査に着手して、この委員会のあるうちに道筋をつけていってほしい。

大久保委員 この建物は被爆建物、平和のモニュメントという側面もある。

爆心地側の煉瓦の目地を調べたら、被爆時にどれくらいの温度の上昇があったかということも調べられると思う。被爆というキーワードも入れて、調査が進められたらと思う。

後藤委員 復興期にいち早く活用されたという、広島にとって被爆からいかに復興したかという歴史も大切。そこも忘れずに整理してほしい。

活用の検討も並行して進む中で、こうした建物の価値を共有することは大切だが、文化的な価値があるからといって、静態的にただ残すことにならないよう、活用の検討が恐れず進むことを期待したい。市民の望む活用が実現するよう、なおかつ、価値が残せるよう、この検討会議で調整、工夫していきたい。

本来は、活用方法が決まらないと完全な実施設計ができない部分があるので、活用が決まったときに、パターン2よりも強度を上げた補強が必要となる可能性があるということ視野に入れて進めてもらいたい。

以上